



Japan Semiconductor

SUSTAINABILITY REPORT

2026



株式会社ジャパンセミコンダクター

	岩手事業所	大分事業所	川崎分室
代 表 者	取締役社長 菅原 毅		
	事業所長 佐藤 倫行	事業所長 北村 徳秀	—
所 在 地	岩手県北上市北工業団地 6番6号	大分県大分市大字松岡 3500番地	神奈川県川崎市川崎区駅前本町 12番1 川崎駅前 タワー・リパーク20階
従 業 員	2,100 名		
生 産 品 目	アナログ・パワー、MCU、リニアイメージセンサ など		—

… 半導体を作る、未来を創る ジャパンセミコンダクター …

□社長の環境方針



2026年 4月 1日
取締役社長 菅原 毅

ご挨拶

当社は、2箇所の製造拠点をもち、岩手事業所は奥羽、北上の両山系と北上川、大分事業所は高尾山、大野川といった美しい自然に恵まれた土地に位置しており、この豊かな環境に配慮することが私たちの使命であると考えます。

両事業所が地域に根ざし、地元の皆様との協調・連帯を図ると共に、SDGs※1を念頭に置き、調達から製造・廃棄に至る全ての事業プロセスにおいてもライフサイクルの視点に立って環境を意識した企業経営を実践し、半導体製品の提供を通じて社会に貢献することを目指します。

※1 SDGs : Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)

お約束します

1. 倫理観と継続性

- 1) 当社の環境側面に適用可能な法的及びその他の要求事項を遵守し、コンプライアンスの徹底を図ります。
- 2) 環境活動レベル及び環境パフォーマンスの向上を図るため、監査と活動のレビューにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行い、環境経営の効果的な運用を推進します。

2. 実行

全ての事業プロセスにおける環境側面について、生物多様性を含む環境への影響を評価し、気候変動並びに、循環経済への対応、生態系への配慮など環境負荷の低減に関する環境目標を設定し、全員で汚染の予防に努め積極的な環境施策を展開します。

- 1) 気候変動への対応のため、カーボンニュートラルに向けた取り組みにより温室効果ガスの排出を抑制します。
- 2) 循環経済への対応のため、生産性の向上、廃棄物の総排出量削減に向けた活動により資源の有効活用を推進します。
- 3) 生態系への配慮のため、使用する化学物質の適正な管理と削減、水資源並びに生物多様性の保全の取り組みを行います。
- 4) 法令遵守のため、常に最新の情報を入手し管理の強化を図ります。
- 5) ステークホルダーとの相互理解促進のため、コミュニケーションや地域・社会との連携に取り組めます。
- 6) 環境に配慮した企業活動の実践のため、自ら進んで行動する従業員を育成します。

この環境方針を社内外に開示するとともに、本組織で働く全ての人々に方針を周知し、方針に沿った企業活動を推進します。

□カーボンニュートラルに関する方針

東芝グループ方針に沿い、2050年度までにカーボンニュートラルを実現

《中期方針》

2030年度までに自社事業活動
(Scope1、Scope2)によるGHGを100%削減

《2025年活動》

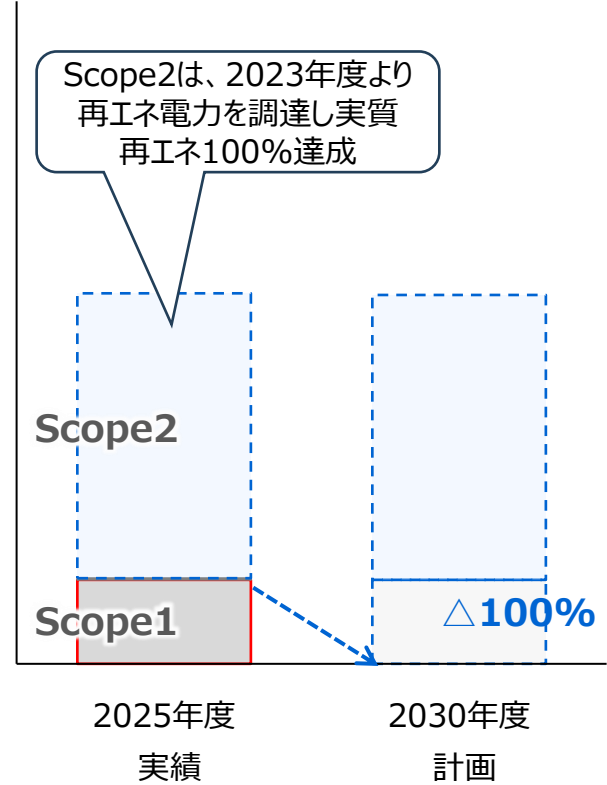
- ・省エネルギー活動の取り組み
- ・省エネルギー設備への更新
- ・自然エネルギー発電設備の導入
- ・オフサイトPPAによる再生可能エネルギー導入

《2026年度以降の取組》

- ・Scope2(電力由来GHG)
 - (1)省エネルギーの促進
 - (2)オフサイトPPAによる再生可能エネルギー拡大
- ・Scope1(自社排出GHG)
 - (1)プロセスガス、燃料ガス削減施策の実行
 - (2)プロセスガス除害装置の拡大
 - (3)低GWPガスへの代替化検討

※ Scope1：自社で直接排出するプロセスガス、燃料ガス等の温室効果ガス
 Scope2：購入した電気由来の間接的な温室効果ガス
 GHG：Greenhouse Gas（温室効果ガス）
 GWP：Global Warming Potentia（温暖化係数）

GHG排出量のイメージ

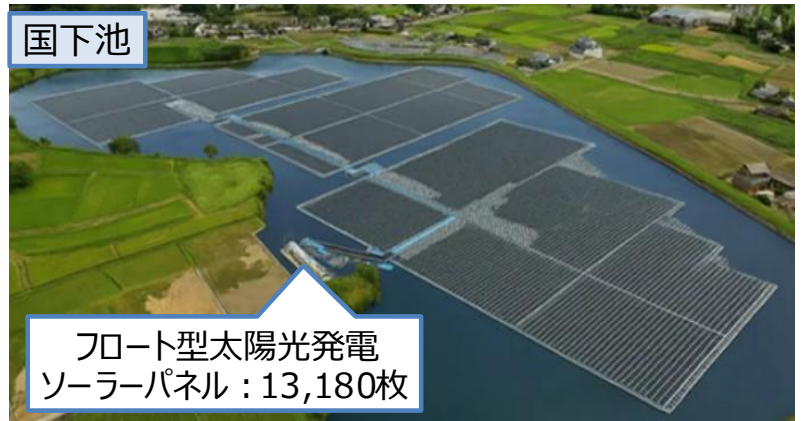


□自然エネルギー由来の環境価値取得

当社では東芝グループの国内半導体製造拠点として、初めて2024年度にオンサイトPPAモデルを大分事業所に導入、2025年5月には岩手事業所も稼働を開始しました。

また、2026年3月からはオフサイトPPAとして香川県国下池メガフロートの太陽光発電の環境価値も取得し、当社全体では、年間で使用する電力の10%をPPAで補う見込みです。

2023年度から導入している再エネ証書の購入による使用電力の実質再エネ100%化と太陽光発電を組み合わせ、再エネ手段のベストミックスを図っていきます。



出典元：デジタルグリッド、OTS、ジャパンセミコンダクター、東芝デバイス&ストレージの共同リリース

国下池メガフロート 太陽光発電

年間発電量：10.38GWh/年の見込み

※PPA：Power Purchase Agreement（電力販売契約）の略。

- ・オンサイトPPAモデルは、発電事業者が電力需要家の敷地や屋根等のスペースを利用して発電設備を設置し、直接再エネ電力を自家消費。
- ・オフサイトPPAモデルは、敷地外に設置された再生可能エネルギー発電所から、長期契約で電力や環境価値を購入する仕組み

□ 動力設備老朽更新による省エネの取組

半導体を製造するクリーンルームは、空調設備や超純水設備をはじめとする様々なインフラ設備によって維持管理されています。今回、岩手事業所および大分事業所において、HAコンプレッサーならびに真空ポンプの老朽更新を実施し、使用電力量とCO₂排出量の削減を図りました。

効果:使用電力の削減量(CO₂排出抑制量)

岩手事業所:▲630MWh/年(▲232t-CO₂/年)

大分事業所:▲848MWh/年(▲312t-CO₂/年)



□ プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律への対応

当社は廃プラスチック屑を、184.5t/年排出しています。

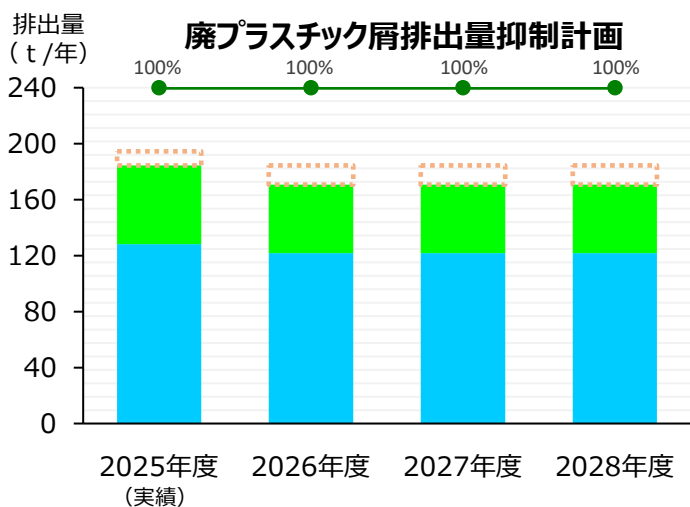
排出された廃プラスチック屑は、全てプラスチック原料や焼却時の燃料として有効利用されています。

引き続き、排出量の抑制に取り組めます。

《廃プラスチック排出量(2025年度)》

(t/年)

	有価物 (プラスチック原料)	廃棄物 (燃料)	合 計
岩手事業所	5.6	50.8	56.4
大分事業所	53.7	74.4	128.1
合 計	59.3	125.2	184.5



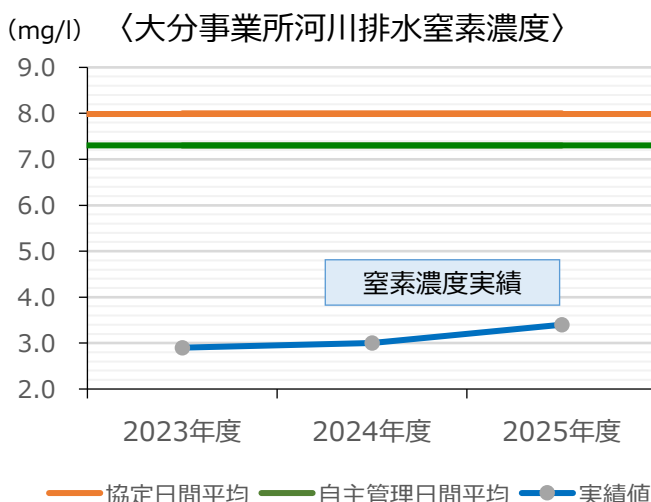
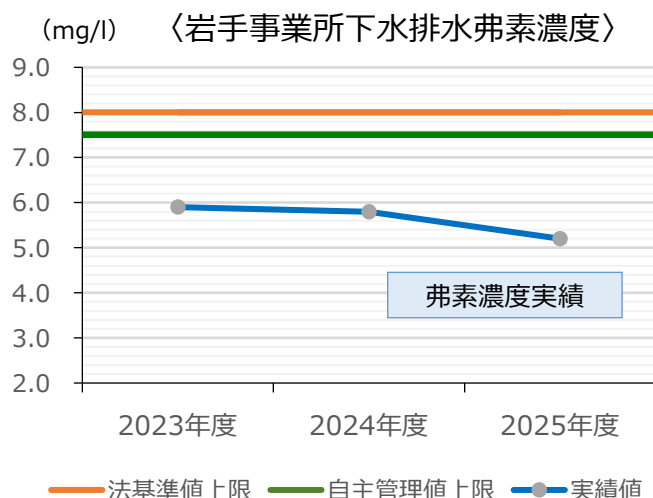
岩手事業所 大分事業所 抑制量 有効利用率

《主な抑制施策》

- 1) ウェーハケース等容器の通い化
- 2) 購入品等の梱包材の削減
- 3) 容器や梱包材のリユース
- 4) 生産効率向上 等

□法令の遵守（工場排水水質の管理）

法令の基準値より厳しい自主管理値の設定と管理



《岩手・大分両事業所の排水に係る法令》

- ・岩手事業所の排水は下水道へ放流しており、下水道法に基づく排水基準が適用されています。
- ・大分事業所の排水は近隣の河川へ放流しており、瀬戸内法よりも厳しい大分市公害防止協定値が適用されています。

《法令の排水基準値を遵守するための取組》

- ・法令遵守の一環として、法定基準よりも厳しい自主管理値を設定し、排水管理を実施しています。
- ・製造工程からの排水は排水処理装置で処理され、水質モニタリング装置により24時間体制で監視を行い、基準の確実な遵守を図っています。
- ・水質基準を逸脱する可能性が認められた場合には、法定基準に達する前に速やかに是正措置を講じる運用体制を整備しています。

これらの取組みにより、内閣官房水循環政策本部が認定する「水循環ACTIVE企業」として認証されました。

リンク先 ⇒ [水循環ACTIVE企業 取組紹介](#)



□環境マネジメントシステム

環境を第一に考え、継続的に改善する仕組みを運用

- ◆ISO14001 第三者機関認証
ISO14001:2015 規格での認証を取得しています。



- ◆環境経営内部監査
システム監査、遵法監査、現場監査により環境問題の発生を未然に防ぎます。

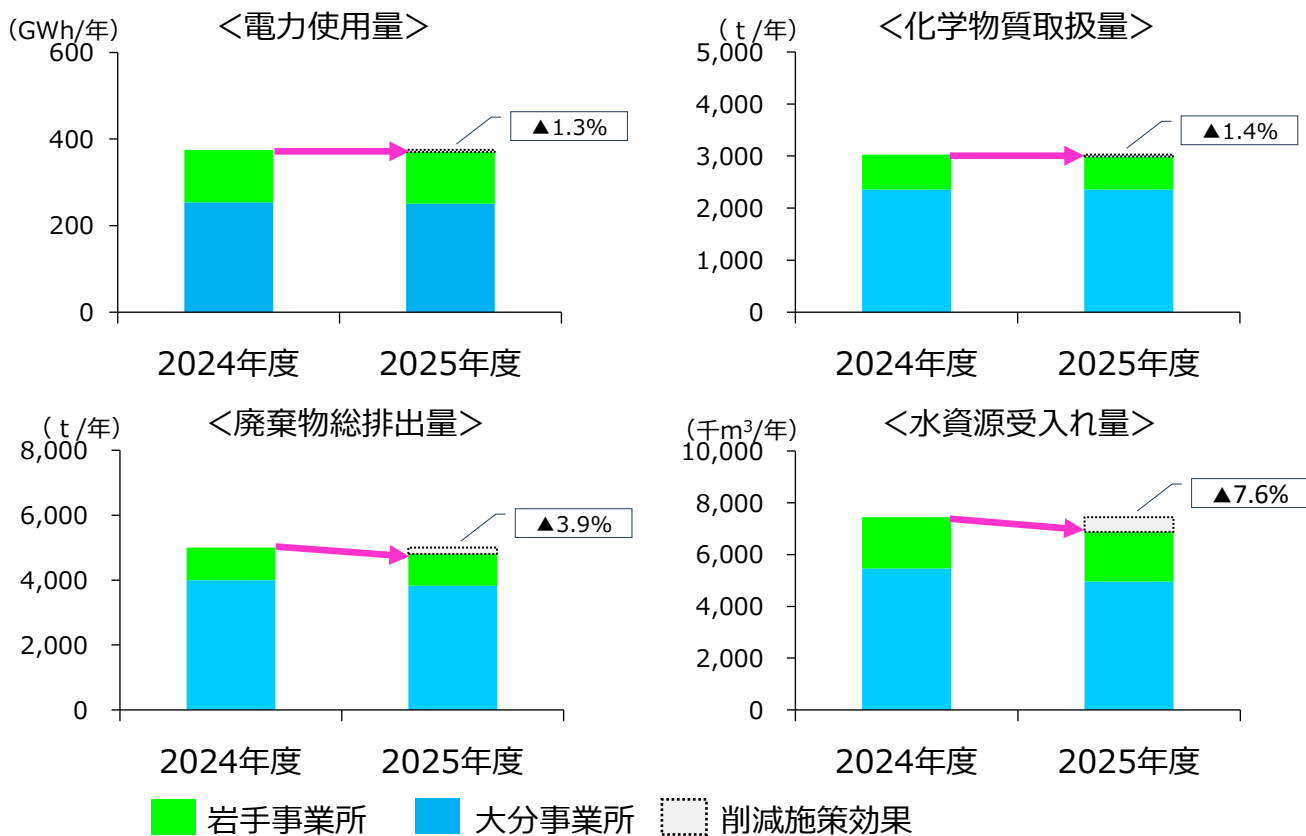


〈3全3現主義〉

- 3全
全域の全設備を
全員で管理
- 3現
現場で現物を見て
現実を管理
- 見る、見せる、
見える管理

事業所の環境負荷状況

使用量・排出量共に最小限となるための削減施策を実行



従業員の環境教育

職能や専門性に応じたカリキュラムで教育

区分	教育名	対象者	内容
階層別教育	環境一般教育	全従業員(常駐会社含む)	環境目的・目標、環境法令 等(e-learning)
	新入者/転入者教育	新規採用者/転入者	地球環境問題・当工場の取組 等(集合教育)
職能別教育	特定従業員教育	特定業務従事者	特定作業の手順を逸脱した場合の環境影響 等
	内部環境監査員教育	内部環境監査員	監査員の役割と責任、監査手順 等
	環境部門リーダー教育	新規の環境部門リーダー	環境マネジメントシステム、リーダーの役割 等

3-2. 環境関係法令 (改正省エネ法)

「エネルギーの使用の合理化及び... (通称: 省エネ法)」

- 法の目的(なぜ必要か)
- 対象(誰に關係するのか)
- 義務(抑えるポイント)
- 従業員の行動(何をしたらよいのか)

4-1. 責任と権限 (管理者としての役割)

環境保全活動の率先垂範をお願いします。また、従業員の環境意識向上に努め、メ...

- 方針等の周知、教育・訓練の実施
- 環境負荷低減の推進
- 省エネ活動の推進
- 各種監査対応
- 環境活動への積極的参加
- 法令等の順守

6-4. (JSC)カーボンニュートラルについて

省エネ活動に積極的に参加し、温室効果ガスの排出を抑制しましょう！

■半導体製造における温室効果ガス(GHG)はどこから排出されるのか

Scope	内容	責任
Scope1	製造でのプロセス(PFC)ガス・LNGガス使用による排出	自社活動によるもの
Scope2	電力の使用による排出	自社活動によるもの
Scope3	販売・購入した製品による排出(製品使用、運搬など)	その他

→ (TDS)グループ目標は2030年までに自社活動によるGHG排出量をゼロにする。

■(JSC)の対応・対策

Scope1について

●(大分)ではPFC排出削減のために、2028年度より除害装置を設置し(若手は対応済)、約37%のPFC削減を計画。既設は、カーボンクレジットで補う

Scope1削減目標

項目	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
PFC-LNGガス	100%	100%	81%	50%	37%	27%	15%	5%

Scope2について

●23年度から再生エネルギーを購入し、再生可能エネルギー実質100%
●(大分)ではPFC削減装置の導入と、再生可能エネルギーの活用により、2026年3月から取組。JSCの電力使用量の約3%を削減

Scope2削減目標

項目	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028
電力削減	100%	100%	81%	50%	37%	27%	15%	5%

テキストを作成し、全従業員に教育を実施

□ 事故・緊急時を想定した訓練の実施

当社従業員の他、ドライバーや常駐会社も訓練に参加



液漏れ想定訓練



夜間訓練

□ 社内環境広報紙の定期発行

環境活動の状況を従業員に毎月伝え、各種情報を共有



□ 従業員の環境意識向上活動

一人ひとりの意識が企業を支える

〈岩手事業所〉 リサイクル施設見学



リサイクルの様子を見学し、分別やCEの大切さを学ぶ
ボランティア活動



従業員607名による市街地清掃活動を実施

〈大分事業所〉 風力発電施設の省エネ見学会



部門のエネルギー使用の抑制の意識向上を図る
構内フラワーギフト



行政から頂いた花の苗をプランターに植栽し、各職場で育成



□環境社会貢献活動

地域との「ふれあい」を大切にし、社会に貢献する環境活動を実践

ペットボトルキャップの寄付



180kgを近隣企業に持込み、途上国にワクチン寄付

空き缶、配線屑回収



家庭の空き缶や配線屑を回収し、売却益を寄付し社会に貢献

半導体出前授業



近隣小学校の生徒に半導体出前授業を実施

チャリティフードの寄付



従業員から集めた食品等619点を寄付

おおいたサイエンスパーク2025



大分市主催イベントで小学生に半導体授業を実施

半導体出前授業



近隣中学校へ出向き、半導体出前授業を実施

□近年の表彰

2025年度「花いっぱいコンクール」最優秀賞受賞



岩手事業所：従業員が管理している花壇において、最優秀賞受賞

2023年度

「環境保全優良従業員表彰 受賞」
「北上市花いっぱいコンクール 優秀賞」

(岩手事業所)

2024年度

「環境保全優良従業員表彰 受賞」
「北上市花いっぱいコンクール 優秀賞」

(岩手事業所)

2025年度

「できることからECOアクション 会長特別賞」
「北上市花いっぱいコンクール 最優秀賞」

(岩手事業所)

お問合せは、岩手事業所 施設管理部 環境保全担当 0197-71-3025